

会員の活動理念 解説

この活動理念は、会員が防災士として活動する場合の拠って立つ基本を定めたものであり、第1で、会員の防災士としての使命、すなわち、その目指す目標を明確にし、第2で、その目標実現のための具体的な活動プロセスを明示したものである。

第1 関係

○地域防災力とは

災害に対する地域住民等による総合活動力で、具体的には、次のものをいう。

①発災直後から消防、警察等公的機関の救援・救助活動が開始されるまでの間、被害の拡大を軽減するため、地域住民等による初期消火、被災者の救出・救護、避難誘導、避難所の開設等の応急活動。

②地域住民等の防災・減災のための事前の備え、すなわち、家庭等における地震の際の初期対応、備蓄品・防災器具等の確保、家具の固定、耐震補強、要援護者対策等の事前対策活動。

③災害後の地域住民等による復旧・復興支援活動。

○地域とは

地域の規模・範囲は、それぞれの地域の実情にもよるが、基本的には町内会、自治会、小学校区単位の区域とする。

○防災協働社会とは

自助・共助・公助の連携によって、災害から生命・身体・財産を守る安全で安心な社会という概念である。

第2 関係

○地域の防災活動に参画し、…指導的役割を果たすとは

会員は、会員が居住する身近な地域の防災組織（例えば、自主防災組織等）に参加し、その組織の中であって、地域の防災活動計画の企画・立案・実施等の活動を推進したり、アドバイスしたりするなどの指導的な役割を果たすことで、具体的に会員の「活動の場」と「その役割」を明示したものである。

○災害の事前対策とは

防災意識の啓発と正しい防災知識の普及、被害想定やハザードマップ等による地域の災害リスクの把握、訓練や演習の実施、耐震補強や家具の固定、避難場所・避難路の確認、災害時要援護者対策の推進など、平時に実施する対策である。

○応急対策（復旧・復興活動を含む）とは

応急対策とは、災害直後の被災情報の収集及び伝達、安否確認、初期消火、被災者の救出・救護、避難誘導、給食・給水、避難所の運営等の応急活動である。

復旧・復興活動とは、復旧は、家やまち、インフラ等を災害前の状態に復すること。復興は物的な再建のみならず被災者の生活再建、コミュニティの再建等をいう。

復旧・復興活動は、ともに災害後かなりの長期間を要する活動となる。

○地域の防災活動計画の策定・実施とは

災害の事前対策、応急対策等に関する講習、研修、各種防災訓練等地域の防災組織における防災活動計画を策定し、実施することである。

○会員相互のネットワークを構築するとは

会員相互が親睦を図り、情報を共有し、都道府県支部等の結成を通じて、会員相互が協力し合って活動できる体制を確立することである。

○地域防災活動のリーダーにふさわしい防災知識・技能とは

会員が防災士として最低限修得すべき防災知識・技能は、おおむね次の通りである。

1 事前対策に必要な知識・技能

- ・ 地域における災害リスクの把握
- ・ 家具転倒防止策の理解と指導要領
- ・ 備蓄品、防災器具等の理解と指導要領
- ・ 簡易耐震診断の説明と実施要領
- ・ 耐震補強法の理解と実施要領
- ・ 各種防災訓練の企画・立案・指導要領
- ・ D I G（災害図上演習）の理解と指導要領
- ・ 自主防災組織の結成、活動計画の策定の手順
- ・ B C P策定の手順

2 応急対策に必要な知識・技能

- ・ 安否確認の方法、災害用伝言ダイヤル・災害用伝言板の使用要領
- ・ 災害時の情報収集・通報要領
- ・ 初期消火活動要領
- ・ 負傷者の救急・救護（応急手当、A E Dの操作方法）要領
- ・ 被災者の避難誘導要領
- ・ 要援護者の救出、搬送要領
- ・ 非常食の炊出し要領
- ・ 避難所の開設・運営要領

○自治体との連携とは

地域防災力を効果的に向上させるためには、地域の防災行政の責務を有する市町村の防災対策と一体的な活動を行う必要があり、自治体との緊密な連携体制の確立が不可欠である。

以上

2009. 10. 21 日本防災士会幹事会